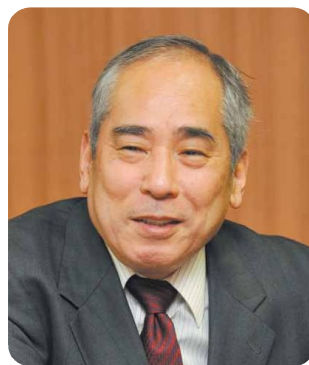


新しい年度を迎えるにあたり



ある。

この1年間を振り返ってみると、硬式野球部が春季リーグ戦で優勝したことは大きな成果であった。長い間、しかも24シーズンぶりの優勝であることから、優勝するということの難しさを思い知った感がある。学生諸君の活動は野球部のみならず、柔道部、陸上競技部、卓球部、ゴルフ部と同じく素晴らしい成績を上げ、目を見張るものがある。学生諸君の活躍は運動部だけではない。国際交流を意識してから早くも20年近くになる。いまや留学生諸君の活躍で「商大に行けば日本を代表する大学院へ進学できる」というブランド化に貢献してくれている。実は、およそ20年前に恐る恐る留学生の受け入れに取り組み、年毎に慎重にその枠を広げてきた。今では本学を卒業して大学院へ進学する者は、慶應大学、早稲田大学、一橋大学、神戸大学、大阪大学、京都大学等々と、「日本一」の進学率を達成するほどま

新しい年を迎え、気持ちも新たに考えるも、学年歴は4月がスタートであることから、新年であるという意識はあまりないのが実情である。

でなくなった。他方、留学生諸君だけの活動ではなく、日本人の活躍にも目覚ましいものがある。本学は毎年4、5名の税理士を輩出し、いまや3桁の税理士が実社会で活躍するにいたっている。さらには、教員免許状を取得して高等学校の教壇に立っている者は220名余りとなった。卒業生諸君の活躍には敬意を表してしきれないものがある。

我々もまた、明日の社会をにらみ、新しい挑戦を行っている。有難いことに、文部科学省から特色教育事業として本学の「遠隔地授業の推進」が採択された。これは本学を核として北は新庄村、津山市、東は瀬戸内市との間に遠隔地授業システムを構築し、地場振興を図ろうとするものである。本学は東京丸の内から配信される慶應大学社会人講座を本学が受け、社会人講座として開放してきた長年の経験にもとづき、来たる社会の新しい教育体制の一つの試みを図っている。このネットワークの構築は、さらに中国、台湾、韓国と広がりを見せている。まだ「評価」はできないが、まさしくアジアにおける有為な人材の育成に向けてのスタートを物語るものとなるかもしれない。いずれ将来、過去を振り返り評価されることであろう。「教育」というものは、その成果を即確認することは難しいが、明日の社会をにらんで今年も大いに挑戦して行きたい。

CONTENTS

<商大トピック>

- マスコミ論開講
- 津山商業生徒訪問

<アジアレポート>

- 孔子学院便り
- 大連に留学して

<キャリアセンター便り>

- 公認会計士試験合格

<情報アラカルト>

- 「私立大学教育研究活性化設備整備事業」採択

商大 トピック

Topic 1

前期学位記授与式

2012.9.14

9月14日(金)、前期学位記授与式が本館大会議室で挙行されました。学部では商学部商学科8名、同会計学科1名、法学部法学科3名、経済学部経済学科2名の14名に、大学院では商学研究科2名に、井尻学長から学位記が授与されました。皆様の今後のご活躍を心からお祈りいたします。(総務企画課)

Topic 2

保護者懇談会

2012.9.15

9月15日(土)に恒例の保護者懇談会を本学で開催し、多数の保護者の皆様にご参加いただきました。個別面談を中心に、教育支援の現状や、就職内定者を迎える座談会など、充実した時間を共有することができました。次回は地方会場での開催も計画しておりますので、皆様のご来場をお待ちしております。(総務企画課)

(アンケートから)

Q.履修計画を立てるとき資料がわかりにくい。受けた科目の開講時間が重なっていることが多くて思うように受けられない。

A.時間割については、学生からの要望をききながら毎年改善をさせていただいておりますが、開講科目が多数あるため、その全ての要望に応えられていないのが現状です。もし履修に関してお困りのことがありましたら、まずは教務課窓口へ相談ください。履修指導を含め、何らかの対応策等を検討させていただきます。(教務部長)

Q.東京アカデミーの公務員講座に参加希望だったが、必修科目と時間が重なり受講を断念した。次年度ぜひ受講したいのでシラバス計画の折、ご配慮願いたい。

A.なるべく多くの学生に受講してもらえよう、比較的授業のない曜日を設定しております。最大限、配慮を心がけますので、ご理解くださるようお願い申し上げます。なお、重なっている科目は配当学年が1年次・2年次からとなっておりますので、計画的な履修をおすすめします。(キャリアセンター長)

Q.商大生は就職面接で落とされることが多いと聞いた。面接の練習対策を検討いただきたい。

A.企業の「厳選採用」の影響を受け、面接試験だけでなく、筆記試験で不合格となるケースも少なからず見受けられます。キャリアセンターではその対策として、筆記試験や面接対策等を内容とした「就職対策講座」や「キャリア形成論」、個別指導による模擬面接、カウンセリング等を実施しております。頻りにキャリアセンターに足を運ぶようにしてください。

(キャリアセンター長)

Topic 3

商業教育についての意見交換会

2012.9.18

県内商業高校の校長先生をお招きし、商業教育についての情報交換を行う意見交換会を平成24年9月18日に開催しました。5年目となる今回は、県内8つの商業高校等からご参加いただき活発な議論が行われました。岡山東高校の榊原校長から商業教育の最近の動きについて、平成25年度の指導要領では管理会計や電子商取引等が新たに加わり、コンプライアンスについても学ぶようになること、グローバル人材の育成では英語教育のみならずアジア経済圏でのコミュニケーション能力が必要となっていることなどの説明がありました。また、平成24年11月10・11日には産業教育フェア岡山へ各校の参加が予定されていることの説明がありました。

その他、各校長先生からは、進学先として看護系や幼児児童教育の人気の高まっていること、地域連携が重要視されており大学のフィールドスタディの際には声を掛けて欲しいこと等の意見がありました。また、商業教育の後継者が不足しており、教員免許を積極的に取得させて欲しいとの要望が寄せられました。

井尻学長からは、フィールドスタディやクラブ活動に力を入れていること、大崎副学長からは積極的に奨学金制度を活用して欲しいとの説明がありました。(産学官連携センター)

Topic 4

マスコミ論

2012.9.24

経営学部3、4年生配当の「マスコミ論」が、山陽新聞社編集局特別編集委員の高坂博士を講師としてお迎えして、開講されました。これは本学と山陽新聞社の事業提携の一環として実施されたものです。

本講義は、経営学科と商学科の学生むけに開講されていますので、単なるコミュニケーション講座や文章の読み方・書き方講座ではない授業計画を立てていきました。講師の高坂博士先生の山陽新聞社での経験を活かし、地域経済がどのように新聞記事に取り上げられるのか、山陽新聞の経済面の特色を説明いただきました。他に、経営学科と商学科の学生の関心が深いと思われる、例えば、地方新聞社の経営の問題点や、購読

者を増やすための活動、また、マスコミの地域活性化に果たす役割などについてお話いただきました。

もちろん、記事の取捨選択の基準や紙面での配置など新聞についての一般的な事項についても学びました。学んだことをすぐに活かすように、事件の警察発表を参考に実際に記事を書いたり、記事を紙面に配置したり、また、商大の広告コピーを作るワークショップなども行ないました。



時には、時事的な話題からマスコミの在り方を論じていただきました。特に、今期(2012年度後期)は、講義期間中に衆議院選挙があり、選挙翌日の新聞作成のため、どれだけ綿密な準備がなされているか、臨場感溢れるお話をいただきました。また、森口氏のiPS細胞を使った治療についての誤報事件の折には、取材時の情報確認の重要性や誤報への対応など、新聞各社の対応を比較分析して、その問題点を説明していただきました。

新聞について「言葉が難しい」とか「インターネットで充分」とか否定的な意見の学生も多く、またその場で新聞記事を読むのは、特に留学生には大変だったと思います。しかし、半期の講義を通じ、新聞への親近感が生まれ「新聞を読みたいと思う」という感想は当然として、「新聞社に勤めてみたい」という声も聞かれるようになったのはうれしいことでした。

(経営学部 松浦美佐子)

Topic 5

キッズマネー教室 in 玉島商業高校

2012.9.11

商学科・FPコース在籍生の母校で例年開催している「キッズマネー教室」も、本年度で5年目を迎え、岡山、香川両県で延べ250組300名を超える児童と保護者を受け入れ、シミュレーションゲームを使用した財政計画、運用、管理の金融経済実践教育を行ってきました。また、昨年8月より、玉島商業高校の生徒とともに、新たなシナリオ立案と教材作成に取り組んだことで、双方向的な学びと創造活動を体験することができ、望ましい成果が得られていると考えており、本年度も同様の取り組みを行っていく計画です。



(経営学部 高林宏一)

Topic 6

岡山企業法務研究会シンポジウムの開催

2012.10.18

平成24年10月18日岡山企業法務研究会のシンポジウムが、本学で開催されました。

同研究会は、昭和58年4月に隣接する専門外の法律分野の知識を習得するために、学者・弁護士・公認会計士・不動産鑑定士・銀行員・企業

法務担当者等が集まり、発足されました。

創立30周年を記念して、岡山大学法学部の吉岡伸一教授の基調講演の後、大学研究者からは、本学法学部准教授の新津和典氏、弁護士から藤原健輔氏、公認会計士・税理士を代表して小橋政彦氏、不動産鑑定士を代表して長家靖氏、司法書士を代表して児島隆朗氏、社会保険労務士を代表して岡和子氏、企業経営者を代表して田代景紀氏をそれぞれパネラーとするパネルディスカッションが行われ、有意義な討議が行われました。聴講した学生たちも、普段はあまり聞くことのできない、実務専門家の話を熱心に聞き入っていました。

岡山企業法務研究会が今後益々発展されることを祈念する次第です。

(法学部 伊藤治彦)



ありました。また、学食体験では、本学学生が高校生とテーブルを囲み、大学では自分の興味を持ったことを深く学べることや、学生生活を充実させるための秘訣などを話しました。

(産学官連携センター)



ち寄った高校生にフィールドスタディの魅力について紹介を行いました。

これまで本学と高大連携活動を行ってきた津山商業高校と岡山南高校などもブース展示しており、お互いにブースを歩き来し交流を深めました。

(産学官連携センター)

Topic 7

犯罪被害者講演会

2012.10.11

2012年10月11日、岡山県警の提供により犯罪被害者講演会が行われました。講師は、被害者遺族の市原千代子先生(NPO法人ファミリーズ)で、50名を超える法学部生が参加しました。「子どもたちを被害者にも加害者にもしないために～被害後を生きては～」と題し、被害者の生い立ち、事件の概要、二次被害、命の大切さなど、ご自身の経験から多くのことをお話いただきました。

また、この10年ほどの間に改正された少年法や刑事裁判への被害者参加などについても、被害者の立場からご意見を伺いました。普段の授業では知ることのできない「生の声」に、学生たちは聞き入り、また一つ新たな視点を持つことができましたように思います。

(法学部 小浦美保)



Topic 8

津山商業・国際ビジネス科生徒体験授業

2012.10.30

平成24年4月17日に包括協定を締結した津山商業高校の国際ビジネス科の生徒32名が、大学の講義や、学生生活を体験するイベントが平成24年10月30日に本学で開催されました。

イベントでは、法学部、経済学部及び経営学部のそれぞれの学部長から、それぞれの学部で学べる内容の説明を受けた後、川本和則教授による「国際会計論」、徐流延講師による「国際観光論」の講義を体験しました。生徒からは、「講義のスピード感が違う」、「留学生によるプレゼンテーションが新鮮だった」などの声が聞かれました。授業体験の後は、学生食堂でそれぞれが希望する学食のメニューを食べ、特に一番人気の「塩だれ豚丼」は多くの生徒からとても美味しいとの感想が

Topic 9

岡山商科大学学会公開学術講演会を開催して

2012.12.20

岡山商科大学学会公開学術講演会が2012年12月20日の4時限目、本学781教室で開催された。今年度の講演会の企画担当は経済学部であったため、筆者が中心となり講師の人選を行った。その結果、お招きしたのは京都大学大学院経済学研究科長および経済学部長の植田和弘教授である。植田教授は、日本における環境経済学の第一人者で、福島原発の事故以降、日本のエネルギー政策が大きな転換を迎える中、調達価格等算定委員会委員長にご就任になり、2012年7月から開始された固定価格買取制度の制度設計では中心的役割を果たされるなど、全国レベルでご活躍の経済学者である。講演テーマは、すばり「日本のエネルギー政策」である。日本のエネルギー政策の再設計の背景から始められ、原発の評価、再生可能エネルギーの意義、固定価格買取制度の理念と課題、そして最後に、再生可能エネルギーを地域発展に生かすポイントを示され、非常に水準の高い講演であった。講演会には、本学学生のほか、学外からも多くの方にご参加いただき、781教室にすべての方を収容できないほどの大盛況であった。講演会の運営にご協力頂いた方々に、厚くお礼を申し上げます。

(経済学部長 多田憲一郎)



Topic 10

第22回全国産業教育フェア岡山大会への参加

2012.11.10

全国の専門高校(商業高校、工業高校など)が行っている取り組みを発表する場として開催されている全国産業教育フェアが平成24年11月10日、11日の2日間、岡山市北区いすみ町の桃太郎アリーナと岡山商科大学附属高校を会場に開催されました。県内60の高校及び全国500校の高校による多種多様な取り組みがブース、ステージ等で発表されました。

本学は「世界を視野に地域に貢献する大学」として、フィールドスタディ及び包括協定締結の写真、各学科の広報パネル、岡山商科大学産学連携商品として、瀬戸内市等の有機米セット及びアヒルの砂りす燻製を展示し、ブースに立



Topic 11

卒業生が商業高校教諭に合格しました

本学卒業生の山川歩さん(商学部商学科)が平成25年度岡山県・岡山市公立学校教員等採用候補者選考試験において、高等学校教諭(商業)に合格されました。

心よりお祝い申し上げますとともに、今後のご活躍を祈念いたします。

(総務企画課)

Topic 12

ガムでフィールドスタディー

ー 地域・産学・国際連携による自主・自立型実践教育の始動 ー

最近、多くの学生は地域社会や国際社会に接する機会が少ないといわれています。その様な状況にあって、大学へ地域・産学・国際連携による自主・自立的な学生を育成する教育支援体制が求められています。

そこで、本学では平成24年から「商学特殊講義I(フィールドスタディーI)」と「商学特殊講義II(フィールドスタディーII)」を開講しました。

フィールドスタディーIでは地域社会の教育力を活用しながら、学生が社会人として社会から求められていることや社会へ貢献できることを学べるようになっていきます。初年度は12名の学生が岡山県内6箇所の受入先で実践学習に励みました。

フィールドスタディーIIでは国際的な観光都市であるガム社会の教育力を活用しながら、現地のアグリビジネスを展開する企業において、ビジネス・語学・文化などを総合的に学べるようになっていきます。初年度となる平成25年2月には7名の学生がアメリカ合衆国ガム島にある受入先で実践学習に励み、大型スーパーマーケットやマリッジビジネスの視察を何度も行いました。



(経営学部 岸田芳朗)

お詫びと訂正

岡山商科大学学報Vol.100トピックスにおいて彫刻家・水山氏の記事について、お名前に誤りがありました。正しくは水山裕司氏です。お詫びして訂正いたします。

「ワイルドな食生活!?!」

経営学部 講師 横澤幸宏

岡山商科大学に赴任して、もうすぐ1年になります。2012年は、コーラのペットボトルを持って、「全部飲みきれもしないのに、買ってすぐキャップを捨ててやったぜ〜。ワイルドだろお」というネタが話題になりました。そこで、「コーラを1度にどれくらい飲むことができるのか?」という疑問を持ったので、自分で調べてみました。結果は、1度に3Lのコーラを飲むことができました。ということは、コーラを買ってすぐにキャップを捨てても、それほどワイルドではないのかもしれない…。

「ワイルドだろお」という言葉が流行したことはあまり関係ありませんが、「研究者たるもの、疑問を持ったことはキチンと調べなければ!」という思いから、研究者としてワイルドに飲み食いした1年でした(ウソです…)。

まず、ワイルドに唐揚げを食べました。ここ数年、私には、「大量生産によってコストが下がるのかを調べてみる」などと適当な理由をつけて、家で唐揚げを大量生産する癖があります。結果は、経営戦略論におけるコスト・リーダーシップ戦略のように、規模の経済や経験効果が作用してコストが下がりました。先日は、唐揚げを40kgつくって、自分の中で1日の最高生産量を更新しました。でも、1人では食べきれない量の唐揚げをつくってしまうので、冷凍庫には常に唐揚げの在庫があります…。

しかし、好物の唐揚げでもたくさん食べていると、1口から得られる美味しさが薄れます。そこで、「ミクロ経済学の限界効用逓減の法則について調べてみる」などと適当な理由をつけて、好きなものを1度に1kg食べました。結果は、限界効用逓減の法則のように、最初の1口は美味しいけど、2口、3口…と繰り返していくと、いくら好きなものでも1口から得られる美味しさがどんどん薄れていきました。刺身(マグロ・サーモン)、肉(牛肉・豚肉・鶏肉)、寿司、焼肉、焼き鳥、唐揚げ、カレー、ラーメン、餃子、サブ缶などを1度に1kg食べましたが、納豆1kgが1番キツかったです…。

納豆1kgを食した経験から、1口から得られる美味しさの減少を緩和させるためには、効用曲線をシフトさせるようなイノベーションが必要だと感じました。そこで、「異質なものの組み合わせがイノベーションを生むのかを調べてみる」などと適当な理由をつけて、納豆と「新結合」できる食材を探索しました。結果は、納豆とアイスクリームを組み合わせると、粘りのあるトルコアイスみたいになって美味しくなりました。新製品開発のように試行錯誤の連続でしたが、効用曲線をシフトさせるようなイノベーションが生まれた気がします。でも、他の人にこの新結合を紹介したところ、却下されました。まるで論文の査読でrejectされるように…。

ちなみに、2012年はワイルドな食生活でしたが、健康診断の結果は異常なしでした。でも、2013年は健康に気をつけて、マイルドな食生活を心掛けていこうと思います。 ※みなさんはマネをしないでください。

作家の視点

江戸川乱歩賞作家 石井敏弘
本学非常勤講師(第十七期商学部卒)

大阪桜宮高校での体罰、そして生徒の自殺事件。柔道日本女子の監督の選手への暴行事件発覚。

なぜか、似たようなことが連続して発生するものも、何かの機運というものでしょうか。これらはどちらかがスポーツを背景とし、指導する側の人間が暴力をもつてそれを行ったことが原因として共通しているのですが、世界的に見るとこのようなやり方は旧態依然とした指導方法(指導とさえ呼べないとは思いますが)というほかはないようです。

日本は、ほかの部分では、世界的に見ても非常に善良な国民として知られていることが、いろいろな統計でもはっきりとしています。それがなぜ、スポーツの現場では、このようなやり方が色濃く残っている箇所があるのか。もちろんこれは部の話と信じたいところですが、体罰の問題も何もスポーツだけに限定されたいはず。それでも、ここへきて妙にクローズアップされてしまいました。

結局、これは指導する側の資質の問題が大きく、本当に強い選手やチームを作ることに、暴力など全く必要ないという科学的な現実を学ぶこともせず、人の指導に当たっている、当たらせている、ということに根本的な問題がひそんでいて、結局は「人」の問題なのだということになってきます。

今、人を指導する立場になってきている世代。この人たちがもともとどういう気質を持ちどのようなプロセスを経て、そのスポーツの世界に入っていくのか。そして、自分がどのような指導を受けてきたのか。一度、大規模で詳しい調査を行ってみると興味深いことがわかってくるかもしれません。

とはいえ、私たちが言えば「指導する側」にあることは変わりありません。何も善でなくても、言葉でも暴力は振るえます。様を正さねばならないのです。

アジアビジネス・プログラム 受講者募集

「アジアビジネス・プログラム」は学部学科に関係なく「国際的(日本も含めたアジア)に働きたい」という目的を持つ学生を支援する講座プログラムです。

語学は中国語を中心に学習します。長年の実績のある岡山商科大学孔子学院の中国語講座でも初心者から安心して学ぶことができます。STEP1は中国を体験する10日間の短期研修、STEP2は日常会話レベルの語学習得など、受講者のレベルに応じた4つの段階から学べます。半年から1年間の交換留学では、提携大学で修得した単位を本学の単位に読み替えることが可能です。

奨学金制度も予定しています。詳細は教務課までお問い合わせ下さい。

経済学部「初」の「ゼミ対抗プレゼンテーション大会」を開催して

経済学部は、2012年12月に第1回「ゼミ対抗プレゼンテーション大会」を実施した。まず、この大会開催までの経緯を説明する。経済学部は、現在、「就職力強化を目指したゼミ改革」に取り組んでいる。教育組織としての学部の究極の目標は、「社会に有為な人材の輩出」である。そのためには、経済学という専門性の獲得はもちろんであるが、ディベートなどの「コミュニケーション力」の強化が不可欠である。この専門性とコミュニケーション力を同時に鍛える「場」は「ゼミナール(以下、「ゼミ」と呼ぶ)」である。2011年度より経済学部は「ゼミ」を学部教育の柱に据え、「ゼミ」教育の「あり方」の改善に取り組んできた。その「成果」のひとつが、このたびの「ゼミ対抗プレゼンテーション大会」なのである。



大会開催で期待している目的は、3つある。第1に、学生のプレゼン力やディベート力の強化である。発表し、質問し、討論する場を設けることで、その力は、鍛えられる。第2に、経済学部のそれぞれの研究ゼミの「研究成果」を持ち寄り、公表することでお互いに学び合うことである。これまで、それぞれのゼミの学生の「卒業レポート」は公開されことなく、担当の教員が評価して処理されていた。「卒業レポート」は、学部の大切な研究資産である。これを有効活用したいということである。第3に、経済学部としての「一体感の醸成」である。発表準備等の共同作業を通じて、ゼミ単位で「仲間意識」をつくり、大会を通して「学部全体の一体感」が醸成されることを期待している。

大会は、12月13日の3時限と4時限に781教室にて実施された。経済学部の3年生と4年生が全員参加して、8つの研究ゼミにより、プレゼンが行われた。それぞれのゼミの持ち時間は「報告15分、質疑5分」である。初めての試みのため、どのような報告が行われるか心配していたが、全くの杞憂であった。学生の報告も質疑も、想定以上に立派なものであり、大会は大変盛り上がり、この後の学生会館での学生全員と教員の打ち上げも大変楽しいものとなった。来年度もぜひ実施したい。(経済学部長 多田憲一郎)

Asia Report アジアレポート

孔子学院便り

(1) サマーキャンプ

2012年9月1日より10日までの10日間、「サマーキャンプ」として提携校である大連外国語学院大学漢学院に12名を派遣した。参加者は中国語だけでなく、中国書道、絵画などの授業も受け、身をもって中国文化を体験することができた。



(2) 日中国交正常化40周年記念

当初、10月中旬に開催を予定していた「日中国交正常化40周年記念講演会」を諸般の事情で延期せざるを得なくなったが、11月15日と11月28日に下記の内容で実施した。

①2012年11月15日、福山大学孔子学院長の久保勲先生に「日中貿易と岡崎嘉平太先生」と題する講演を共催で実施した。本学の学生を中心に約350名の参加となった。

②2012年11月28日、本学の甲元孝朋特任教授による「岡山と中国の架け橋：国を惟う〜3つのモチーフ〜」と題する講演を本学孔子学院主催で実施した。対象は岡山市日中友好協会会員と本学関係者としたが、約70名の参加者があった。



(3) 料理教室

2012年12月22日(土)岡山市福祉交流プラザ富原の要請を受け本学孔子学院黎明妮副学院長による「中国ちまき作り教室」を開催した。

当日は、近隣の主婦の方を中心に15名の参加があった。ちまきを試食しながらの簡単な中国語講座も併せて開催し、和やかな雰囲気の中で終了した。



「日本事情」課外授業「後楽園」と「岡山城」の見学

11月10日(土) 暖かい晴天の朝、私たちは先生と一緒にバスで後楽園へ向かいました。赤、青、白、黄4つのグループに分かれ、後楽園のボランティアの方の親切な説明のもとで見学しました。

岡山市近郊に位置している後楽園は日本三名園の一つで、江戸初期を代表する大名庭園です。後楽園は明るい芝生、鬱蒼とした森、高い築山、広い池を対照的にうまく配置されていて休憩の最高の場所だと思っています。学生同士は記念に写真を撮り合いました。素晴らしい風景に頻りに褒めそやした学生がたくさんおりました。散策を楽しみながら、いろいろな知識を習いました。それに先人の知恵の結晶に感動しました。ところで、昭和31年、岡山大で勉強したことがあつた郭沫若から後楽園に丹頂鶴が二羽贈られました。現在八羽を飼育しています。丹頂鶴のいる後楽園で見学することをとおして中日両国の友好関係が分かりました。

後楽園を見学したあとで岡山城へ行きました。当初、岡山城は実戦向きに建造されました。黒い城であることから、「烏城」ともよばれます。残念ながら、1945年6月の戦火によって天守閣を初め多

くの部分が焼失してしまいました。岡山城の旧跡の説明で、岡山の歴史をよくわかりました。学生たちは展示品に強い興味を持っていました。最後に最上階の天守閣に登って美しい風景を見ることができました。そして、岡山城の公園広場で菊の展示会にも立ち寄りしました。色とりどりの大輪の菊で飾った花壇を見て、岡山人の美と幸せを追い求める姿を感しました。

私たちは今回の課外授業を楽しみました。自然と親しくしましたし、すばらしい風景を見ましたし、歴史も学びました。充実した体験だけではなく、忘れがたい思い出と思っています。チャンスがあれば、その他の名所旧跡にも行きたいです。最後に私たち留学生は熱心なボランティアガイドに心から感謝し、先生たちの付き添いも感謝します。(日本事情受講生 祝玉潔 劉璐 李曉娟 李雪)



「もしドラ」ゼミ商大野球部を応援



外国人入学前教育履修ゼミの課外授業として、10月13日(土)倉敷マスカットスタジアムへ学生10名で大学野球中国地区秋季リーグの最終戦の応援に出掛けました。ゼミ教材の「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」の趣旨にそって、日本のスポーツ文化のひとつである野球を理解する上で、絶好の場として本式の野球場での秋季リーグ戦観戦とわが校の応援を体験しました。ゼミ生の応援むなしく、わが校は惜敗でしたが、野球部の皆さんの温かいご支援で、野球ゲームに興味を持ってもらうことが出来ました。午後は大原美術館の美術レクチャールームと名画鑑賞、美観地区散策を楽しみ、有意義な日でした。お蔭でドラッカーの『マネジメント』の講読も順調に捗っています。(経営学部 甲元孝朋)

大連に留学して

1年間、中国の大連に留学して多くのことを学びました。留学する前は楽しみな気持ちより不安が大きかったです。何も知らない外国で1年間やっといけるか心配でしたが、一緒に留学した友達に支えられてすぐ中国の生活に慣れました。勉強だけでなく生活面や精神面も大きく変化しました。今まで家族に頼っていた家事も寮生活で自分からするようになり、生活リズムも日本にいるときとは違って早寝早起きを心がけました。中国で生活をして嫌なことがあっても乗り越えられる精神力もつきました。帰国後、中国語の力が衰えないよう自分で勉強する時間を取るようになりました。前まで努力することが苦手だった自分がここまで成長できたことやしっかり成績を残せたのは中国に留学できたおかげだと思います。留学へ行かせてもらった家族をはじめ、熱心に指導してくださった先生方や応援してくれた友達、そして私の留学を支援してくださった岡山商科大学に感謝してこれからの目標に向かって頑張っていきたいです。(経営学部商学科 2年 仲上綾華)

Asia Report アジアレポート

孔子学院便り

(1) サマーキャンプ

2012年9月1日より10日までの10日間、「サマーキャンプ」として提携校である大連外国語学院大学漢学院に12名を派遣した。参加者は中国語だけでなく、中国書道、絵画などの授業も受け、身をもって中国文化を体験することができた。



(2) 日中国交正常化40周年記念

当初、10月中旬に開催を予定していた「日中国交正常化40周年記念講演会」を諸般の事情で延期せざるを得なくなったが、11月15日と11月28日に下記の内容で実施した。

- ①2012年11月15日、福山大学孔子学院長の久保勲先生に「日中覚書貿易と岡崎嘉平太先生」と題する講演を共催で実施した。本学の学生を中心に約350名の参加となった。
- ②2012年11月28日、本学の甲元孝朋特任教授による「岡山と中国の架け橋：国を惟う〜3つのモチーフ〜」と題する講演を本学孔子学院主催で実施した。対象は岡山市日中友好協会会員と本学関係者としたが、約70名の参加者があった。



(3) 料理教室

2012年12月22日(土)岡山市福祉交流プラザ富原の要請を受け本学孔子学院黎明副学院長による「中国ちまき作り教室」を開催した。

当日は、近隣の主婦の方を中心に15名の参加があった。ちまきを試食しながらの簡単な中国語講座も併せて開催し、和やかな雰囲気の中で終了した。



「日本事情」課外授業「後楽園」と「岡山城」の見学

11月10日(土) 暖かい晴天の朝、私たちは先生と一緒にバスで後楽園へ向かいました。赤、青、白、黄4つのグループに分かれ、後楽園のボランティアの方の親切な説明のもとで見学しました。

岡山市近郊に位置している後楽園は日本三名園の一つで、江戸初期を代表する大名庭園です。後楽園は明るい芝生、鬱蒼とした森、高い築山、広い池を対照的にうまく配置されていて休憩の最高の場所だと思っています。学生同士は記念に写真を撮りました。素晴らしい風景に頻りに褒めそやした学生がたくさんおりました。散策を楽しみながら、いろいろな知識を習いました。それに先人の知恵の結晶に感動しました。ところで、昭和31年、岡山大で勉強したことがあつた郭沫若から後楽園に丹頂鶴が二羽贈られました。現在八羽を飼育しています。丹頂鶴のいる後楽園で見学することをとおして中日両国の友好関係が分かりました。

後楽園を見学したあとで岡山城へ行きました。最初、岡山城は美戦向きに建造されました。黒い城であることから、「烏城」ともよばれます。残念ながら、1945年6月の戦火によって天守閣を初め多

くの部分が焼失してしまいました。岡山城の旧跡の説明で、岡山の歴史をよくわかりました。学生たちは展示品に強い興味を持っていました。最後に最上階の天守閣に登って美しい風景を見ることができました。そして、岡山城の公園広場で菊の展覧会にも立ち寄りしました。色とりどりの大輪の菊で飾った花壇を見て、岡山人の美と幸せを追い求める姿を実感しました。



私たちは今回の課外授業を楽しみました。自然と親しくしましたし、素晴らしい風景を見ましたし、歴史も学びました。充実した体験だけではなく、忘れがたい思い出と思っています。チャンスがあれば、その他の名所旧跡にも行きたいです。最後に私たち留学生は熱心な解説員に心から感謝し、先生たちの付き添いも感謝します。

(日本事情受講生 祝玉潔 劉麗 李曉娟 李雪)

「もしドラ」ゼミ商大野球部を応援



外国人入学前教育履修ゼミの課外授業として、10月13日(土)倉敷マスカットスタジアムへ学生10名で大学野球中国地区秋季リーグの最終戦の応援に出掛けました。ゼミ教材の「もし高校生の女子マネージャーがドラッカー「マネジメント」を読んだら」の趣旨にそって、日本のスポーツ文化のひとつである野球を理解し、絶好の場として本式の野球場での秋季リーグ戦観戦とわが校の応援でした。ゼミ生の応援むなく、わが校は惜敗でしたが、野球部の皆さんの温かいご支援で、野球ゲームに興味を持ってもらうことが出来ました。午後は大原美術館の美術レクチャールームと名画鑑賞、美観地区散策を楽しみ、有意義な日でした。お蔭でドラッカーの「マネジメント」の講読も順調に捗っています。(経営学部 甲元孝朋)

大連に留学して

1年間、中国の大連に留学して多くのことを学びました。留学する前は楽な気持ちより不安が大きかったです。何も知らない外国で1年間やっといけるか心配でしたが、一緒に留学した友達に支えられてすぐ中国の生活に慣れました。勉強だけでなく生活面や精神面も大きく変化しました。今まで家族に頼っていた家事も寮生活で自分からするようになり、生活リズムも日本にいたときとは違って早寝早起きを心がけました。中国で生活をして嫌なことがあっても乗り越えられる精神力もつきました。帰国後、中国語の力が衰えないよう自分で勉強する時間を取るようになりました。前まで努力することが苦手だった自分がここまで成長できたことやしっかり成績を残せたのは中国に留学できたおかげだと思います。留学へ行かせてもらった家族をはじめ、熱心に指導してくださった先生方や応援してくれた友達、そして私の留学を支援してくださった岡山商科大学に感謝してこれからの目標に向かって頑張っていきたいです。(経営学部商学科 2年 仲上綾華)

キャリアセンター便り

私の就職活動

私は就活サイトでの企業へエントリーが可能になる12月から就職活動をスタートしました。その頃は、「自分がどのような職種で、どんな内容の仕事がしたいのか」が全く明確ではなく12月から1月には合同企業説明会に複数参加し、様々な企業を知ることに重点を置きました。そのうちにアルバイトで経験して自分に合っていると感じていたスーパーマーケットなどの小売業や自分のアドバイスで地元企業の経営内容を改善し、地域社会の活性化に貢献できる地方銀行や信用金庫などを中心に就活を進めていくことに決めました。2月に入り、初の面接試験に臨みましたが結果は不合格であり、自己PRと企業研究の甘さを痛感しました。それを機に書店で自己PRの本を読み漁り、自分の良さを端的に伝える文章を作ったことで、企業を納得させる面接が出来るようになりました。



その後の就職活動は比較的順調に進み6月までに小売業、自動車ディーラーなど4社の内定を頂きました。しかし本命である金融機関は内定が貰えず、諦めかけていましたが、8月に吉備信用金庫から募集の案内があり、最後のチャンスかもしれないと信用金庫に対する情熱を筆記試験や二回の面接で聞いていただき無事内定を頂くことができました。

最後まで諦めなければよい結果に結びつくこともあるのだということをこの就職活動で学びました。内定はゴールではなくスタートラインだということを肝に銘じ、新社会人として頑張っていきたいと思っています。

(法学部法学科 八木征也)

公認会計士試験に合格

この度、無事に公認会計士試験に合格することができました。

就職活動も一段落した後、中学や高校時代の友人と食事に行く機会があり、公認会計士の話題になることが度々ありました。ところが、私の友人の多くは公認会計士が具体的にどのような業務を行うのかを知りませんでした。公認会計士はよく医師や弁護士と合わせて3大資格と言われますが、比較的認知されていないように思います。在校生や受験を考えている学生、あるいは卒業生の中には公認会計士に興味をもたれている方もいらっしゃる



ると思います。そういった方々の身近な公認会計士の一人になれたらと思い、筆を取った次第です。

私が公認会計士を意識したのは高校3年生の頃でした。ただし、当時は一般事業会社の経理や税理士も含めて、会計を用いて生きていきたいという想いの中の選択肢の一つに過ぎませんでした。岡山商科大学に入学してからは税理士試験の勉強を始め、大学1回生の時には不合格となっていました。その後は、アルバイトや遊びに時間を費やしたことを覚えています。カラオケ、ボーリング、ビリヤード、ゲーム等、仲の良い友達と遊ぶのが楽しく、大学の講義も適度にサボっていました。友達と2人で、自転車に乗って四国を一周したこともあります。ただ一方で、勉強しないといけないのに、という思いが自分の中で溜まっていきました。大学生生活も半分が過ぎようという大学2回生の2月、ふと、勉強を始めました。適度に休憩を取りながらも、一日何時間も勉強する日が続き、当時、大学生生活はもう絶対に繰り返したくないと思いながら勉強していました。大学四回生の頃には、糸が切れたように勉強できなくなったときもありましたが、ようやく2012年に合格にこぎつけることができました。公認会計士試験論文式試験直前には、緊張のあまり嘔吐を繰り返すこともありましたが、今でこそ思えるのは充実した大学・大学院生活だったということです。友達と遊ぶことは楽しく、故に大学・大学院は勉強に励むだけの場所ではないとも思えますし、勉強しようと思ったときにはバックアップして頂き、非常に良い環境にいたと思います。

私が後輩にアドバイスできるとすれば、よく遊び、よく学ぶことです。友達は人生における重要な財産になると思いますし、私がそうだったように岡山商科大学は勉強する学生を全力でバックアップするはずで、当時の私は教授の凄さを知らず、わからない問題にぶつかったときに教授に教えて頂きに行き、その知識の深さと広さに驚いたものです。また、公認会計士に興味のある方は、大学を通じてメールを頂ければご返信致します。大学生当時、身近に公認会計士がいなかったために具体的なイメージできなくて困ったことを覚えています。

最後に、今後の抱負を述べて本稿の締めくくりとさせていただきます。私の将来の夢は国際的に活躍できる公認会計士になることです。恥ずかしながら英語は苦手ですが、日本企業がグローバル化する現状を踏まえ、公認会計士自身もグローバル化しなければクライアントに対して価値あるサービスを提供することが困難という必要性を感じるところです。ただ、自らの哲学的考察の結果として、日本企業の海外進出をバックアップできるような能力と経験を積んでいきたいと考えています。これからも、変わらぬ応援のほど、よろしくお願い申し上げます。

(平成23年3月商学部会計学科卒 森本良亮)

6時間リレーマラソン商大陸上部優勝

2012年9月30日(日)に「第2回トマト銀行6時間リレーマラソン」がkankoスタジアムで行われました。本学陸上競技部は【一般部】に参加し、見事優勝しました。もちろん優勝できたことには喜んでいましたが、それ以上に、普段の練習や大会とは異なる雰囲気の中で楽しく走れたことに、参加した意義を選手達は感じていました。来年度以降も積極的に参加したいと思います。今後とも応援よろしくお願いたします。(陸上競技部コーチ 永岡 大)



晴れの国スカラシップ事業について

晴れの国スカラシップは(公財)岡山県産業振興財団、(社)岡山経済同友会、岡山大学、岡山理科大学、岡山商科大学及び吉備国際大学が平成24年6月13日(水)に連携して、岡山県内の大学に在籍しているアジア留学生を岡山と出身国の架け橋となるビジネス人材に育成することにより、県内企業のグローバル展開の一助とし、岡山県産業の維持発展につなげることを目的として、「アジア留学生ビジネスネットワーク構築支援事業」に関する覚書を締結しました。

事業内容としては、アジア地域からの留学生を対象としたインターンシップ「アジア留学生インターンシップ事業」と今後国際的な活躍が期待される優秀な留学生に、奨学金を給付する「晴れの国スカラシップ事業」を実施します。

【奨学金受給者の声】

「奨学金をいただきました。本当にありがとうございました。お金の問題ではないけれど、この2年間の努力の証しみたいなものを感じます。もちろん生活面でもとても助かりました。これからも精いっぱい頑張ります。」

(経済学研究科2年 夏 菁)

大学授業体験を終えて

2012.10.1~10.5

私はキャリア研究Ⅱの体験授業で、岡山商科大学で貴重な体験をさせて頂きました。

まず、大学生活は高校生活とは違って授業の内容がとても難しく、内容も専門的で興味深いものばかりで楽しかったです。

また、個人の自由が大きい反面、個人の選択がとても重要で責任が大きく、大変だと思いました。

そして、授業だけでなく、キャンパスが高校と比べて広かったり、学食のメニューが豊富だったり等、新鮮な体験もたくさんあって、自分の視野が広がり、進学を目指す気持ちが以前より強くなりました。このように思えるようになったのも、今回、岡山商科大学で5日間過ごすことができたおかげです。5日間ありがとうございました。

(岡山市立岡山後楽館高等学校2年次 キャリア研究一同 代表者 青木康朗)



甲南大学へ行ってきました!

～単位互換制度利用～

私は3年次になった昨年の4月から1年間、甲南大学へ単位互換制度を利用して通学しました。動機はいくつかありますが、その中でも大学生活で今まで経験していないことに挑戦したい思いが強かったからです。その一方、新しい環境での生活など不安もありました。様々な期待や不安を持ち甲南大学に通い始めました。授業ではゼミと経営コンサルティング論が印象に残っています。ゼミは財務会計のゼミで企業の経営比較や財務分析をグループと個人でやりました。初めての取り組みで苦労しましたが、専門的な内容を学べました。もう一つの経営コンサルティング論という科目は、経営コンサルタントの方による授業で毎回グループディスカッション行いました。初めは緊張していましたが、回を重ねることに、いろんな考えが聞けるため楽しい授業でした。

学校以外では神戸や大阪など関西の街を満喫出来ました。また、新しい友達が増えて交友関係が広がりました。

これらの経験を通して、物事に対する視野が広がり、より行動的になったと感じています。貴重な経験をさせてもらい、いろんな方に感謝しています。

(経営学部経営学科3年 藤原俊一)

第47回商大祭

2012年10月18日～19日に第47回商大祭「Take a Step～新たな一歩～」が開催されました。運営にあたり至らない部分も多々ありましたが、先輩や後輩や友人たち、教職員の方々のご協力やアドバイスにより、素晴らしいものになりました。また、大学祭実行本部の私たちも大きく成長することができました。第48回商大祭は、今年以上に良いものをつくりあげていきたいと思っております。よろしくお祈りいたします。

(第48期大学祭実行本部委員長 佐藤将司)



留学生歓迎会に参加して

平成24年10月12日に、海外からの外国人留学生により一層、日本に親しんでもらうための留学生歓迎会が学生会館2階で開催されました。歓迎会に参加した留学生の感想を紹介します。

「岡山商科大学経済学研究科の大学院生として、はや6ヶ月が経とうとしています。入学したばかりの頃は何もわからずとても不安でしたが、教職員の方々や在学生の皆さんの心温まる対応に來たばかりの私の心はとて穏やかにそして暖かくなったのを感じています。

日本に來たばかりの留学生たちは、日本の歴史や文化を見学し体験するための企画や、10月に在生が中心となって開催された新入生歓迎会ではおいしい日本食や先輩留学生によるダンスや歌に感激し、とてもいいスタートになりました。そして日本での留学生活では、たくさんの友だちをつくり、チャレンジを忘れず学業に励みたいと思っています。」

(経済学研究科1年 何雲龍 大連大学出身)



最終講義を終えて

平成25年1月23日、1時限、経済政策Ⅱの講義が岡山商科大学での私の最終講義となりました。昭和50年3月に神戸大学大学院経済学研究科博士課程を修了し、4月から本学に奉職して38年間、経済政策、経済学、生活経済論などの講義を担当してきましたが、経済政策は最初から最後まで続けてきた講義であり、講義を終えたときは感無量でした。

この講義では、ソ連・東欧諸国の集権社会主義崩壊以降、市場経済の勝利と言われてきましたが、市場は万能ではなく、市場経済が機能するための前提条件の不備による問題の発生や、市場経済では解決不能な問題があり、これらの問題解決のために様々な経済政策が実施されていることを述べ、さらに、市場による評価にも限界があることを話しました。そして、私たちの生活では、営利主義的な経済計算よりも重要な価値、たとえば、真・善・美・聖があることを強調して、講義を終えました。

これまで講義を聴いてくれた学生の皆様方、講義を支えてくださった教職員の皆様方、長い間、ありがとうございました。厚く御礼を申し上げます。



(経済学部教授 喜田栄次郎)

平成24年度「私立大学教育研究 活性化設備整備事業」への採択

本学の建学の精神に基づき、教育理念として「社会事業を的確に捉え、分析し、解決する能力を備えた心豊かな人材の育成」を掲げ、その実現のために地域の経済・産業界、地方公共団体、教育機関などと連携し、実践教育やフィールドスタディといった本学独自の特色ある教育を実施しています。



これらの取り組みに於いては地理的・時間的制約が大きな課題であり、その展開には自ずと限界があります。例えば、フィールドスタディは、学生と教員が地域に出かける回数が多くなり、学生は授業への公欠、教員の授業の休講を余儀なくされ、教育の質の低下や、学生と教員の負担が大きくなるのが避けられません。他方地域においても、打ち合わせ、相談、住民の本学への来校にも障害があり、連携の程度が低くなるのが避けられません。

このような問題を同時に解決するために、公欠をした学生、諸事情により欠席した学生に後から授業を受けられるDVD講義支援プログラムを本学の講義案内システムに追加すること、また地域と本学との間にTV会議システムを導入して地域との連携を密にすることを目的として、文部科学省の教育設備整備事業に「地理的・時間的制約を越える遠隔教育システムの充実」をテーマとして、ワーキンググループで申請書を作成し申請したところ、内容が評価され採択されました。

現在、講義案内システムにDVD講義支援プログラムの追加作業、そして県内2市町村、1高等学校にサテライトを設置することで事業を進めています。来年度からは本格的に使用していただくことを学生、教員の皆様にお願ひします。

学位記授与式・入学式のご案内

学位記授与式 2013年3月22日(金) 10時30分～
入学式 2013年4月 3日(水) 10時30分～
※いずれも体育館

人事異動

種別	役職等	氏名	所属	日付
退職	嘱託職員	李 敬	会計課	9月30日
採用	招へい講師	万 宇寧	経営学部	9月15日
	嘱託職員	中司憲子	会計課	10月22日

卒業記念パーティー開催

平成25年3月22日(金)13時より第1学生会館2階食堂にて、卒業される皆様方を祝しまして記念パーティーを開催いたします。

記念パーティーでは食事やビンゴ大会など、皆様方楽しんでいただけるものをご用意しております。中でもビンゴ大会では豪華賞品も数多く用意しておりますのでなかなか楽しめるのではないかと思います。

卒業される皆様方にとって有意義な時間になるよう在校生一同盛り上げましょう。

参加費は無料となっております。皆様お誘いの合わせのうえぜひご出席くださいますようお願い申し上げます。(学生課)

訃報

経営学部教授 井上倫明先生が、去る2012年9月6日ご逝去されました。先生は大学院修了後の1980年、助手として本学に赴任、その後、2000年に教授に就任されました。保健体育科目の教鞭を執られるとともに、教養科目の担当主任、教学部長などの要職も歴任され、大学の教育運営の両面でご尽力されました。課外活動においては軟式野球部を精力的に指導され、たびたび全国大会へチームを導かれ、更に学外においては「吉備高原車いすふれあいロードレース」の実行に長年携わられるなど、その活躍の場は多岐に渡っていました。在校生・卒業生問わず多くの方から慕われた先生の、その余りに早すぎる訃報に接し、大きな悲しみと喪失感に包まれています。心からご冥福をお祈り申し上げます。



慶應MCC 夕学サテライト 2013年度前期 開催予定

2013年2月27日現在決定しております、2013年度前期夕学サテライト配信対象の全15講演の予定です。<>は「夕学五十講」2013年度前期のテーマです。

- 開催時間 18:30～20:30(開場18:00)
- 会場 岡山商科大学 7号館781教室
- 受講料 パスポート券(15回)10,000円
受講券(1回)1,200円

4月9日(火) <氣流の繪巻に聞く>

手嶋 龍一 (てしま りゅういち)
慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授、外交ジャーナリスト作家
「インテリジェンスで眺めろアジア半島」

4月16日(火) <氣流の繪巻に聞く>

山崎 元 (やまざき はじめ)
楽天証券経済研究所 客員研究員
「アベノミクス第二幕を読む」

4月18日(木) <剛と大を制す方法論>

藤井 純一 (ふじい じゅんいち)
近畿大学経営学部教授、前北海道日本ハムファイターズ球団社長
「日本一のチームをつくる～組織改革と、モチベーションアップによる～」

4月19日(金) <どっこい日本!>

森川 亮 (もりかわ あきら)
NHN Japan 株式会社 代表取締役社長
「日本発グローバルラインの挑戦」

5月17日(金) <先が見えない時代の生き方>

長沼 毅 (ながぬま たけし)
広島大学大学院生物圏科学研究科 准教授
「辺境生物にみる環境適応力」

5月21日(火) <剛と大を制す方法論>

経沢 香保子 (つねざわ かほこ)
トレンダーズ株式会社 代表取締役
「トレンダーズ流「一流企業を目指す道」」

○映像を含む講演75分・質疑応答45分の構成です。

5月30日(木) <どっこい日本!>

高島 宏平 (たかしま こうへい)
オイシックス株式会社 代表取締役社長
「食べる人 - 作る人 - つなぐ私たち」

6月4日(火) <剛と大を制す方法論>

三島 邦弘 (みしま くにひろ)
ミシマ社 代表
「ミシマ社という名の冒険」

6月11日(火) <氣流の繪巻に聞く>

関分 良成 (せきぶん りょうせい)
防衛大学校 学長
「中国は、いま」

6月27日(木) <どっこい日本!>

三宅 秀道 (みやけ ひでみち)
東海大学政治経済学部経営学科 専任講師
「新しい市場のつくりかた」

7月5日(金) <剛と大を制す方法論>

宮本 亜門 (みやもと あもん)
演出家、神奈川芸術劇場初代芸術監督

「可能性を引き出すリーダーシップ」

7月12日(金) <人間道になりたい>

小田嶋 隆 (おだじま たかし)

コラムニスト

「コラムという生き方」

7月16日(火) <氣流の繪巻に聞く>

萱野 稔人 (かやの としひと)
津田塾大学国際関係学部 准教授
「縮小社会の文明論」

7月18日(木) <先が見えない時代の生き方>

中島 尚正 (なかじま なおまさ)
海陽学園 海陽中等教育学校 校長
「次代のリーダー育成～全寮制・海陽学園の取り組みから～」

7月26日(金) <先が見えない時代の生き方>

大木 聖子 (おおき さとこ)
東京大学地震研究所 助教
「教養としての地震学」